

## 調査結果の概要

### 1. セミナー（意見交換会）、ワークショップ及びアンケート調査における意見

参加者や調査で得られた「課題・問題点」、「対策」、「夢」について、類似した意見ごとに分類し、次のとおり関連する内容に振り分けた。

（具体的な意見については、参考資料1の p.1～19 参照）

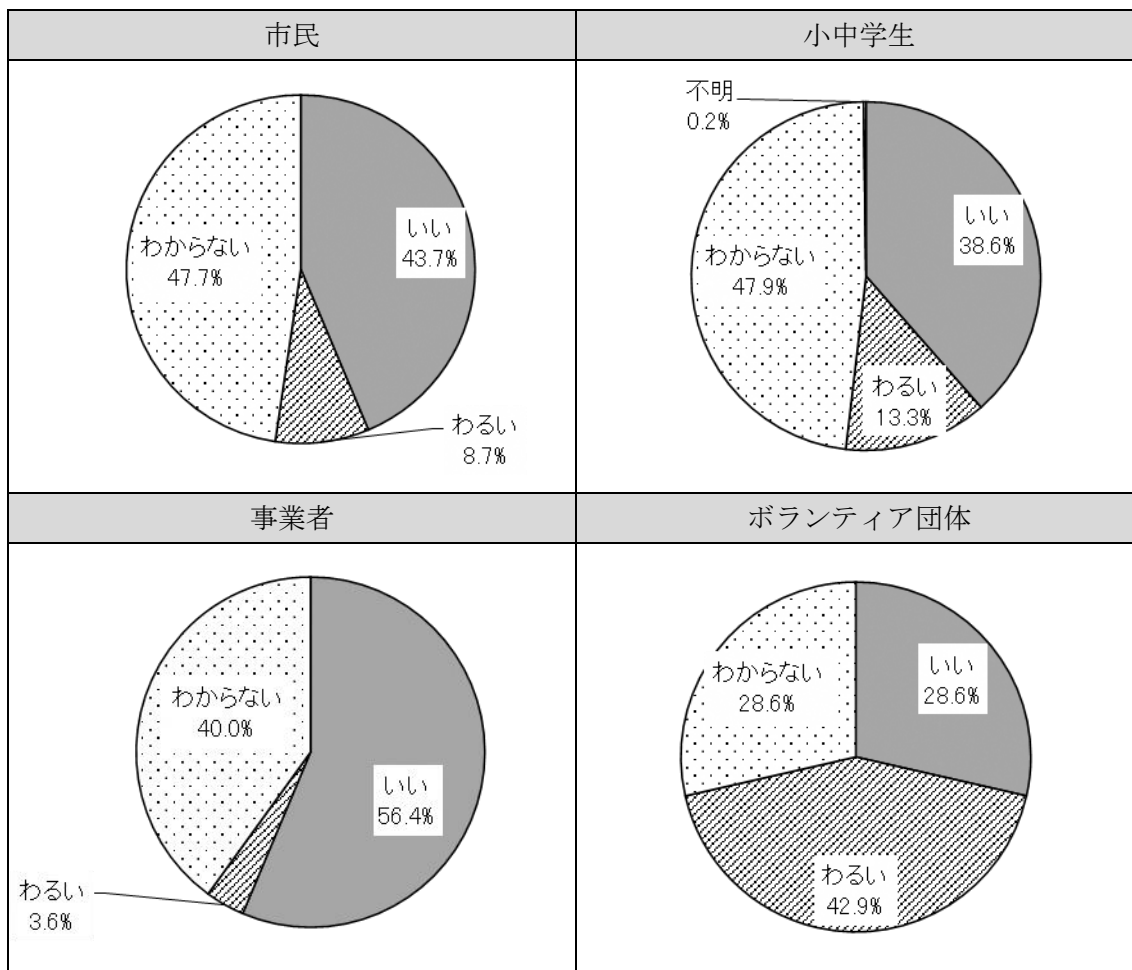
分類	関連する内容
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 河川、海城、樹林地、公園等の保全等</li><li>・ 貴重種の保護</li><li>・ 外来種対策</li></ul>	水環境の保全等
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生物多様性の保全等</li><li>・ 河川、海城、樹林地、公園等の保全等【再掲】</li><li>・ 貴重種の保護【再掲】</li><li>・ 外来種対策【再掲】</li><li>・ 谷津田の保全</li><li>・ 農業振興</li><li>・ 開発行為、廃棄物</li></ul>	生物多様性の保全等
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人材の確保、育成</li><li>・ 環境教育、環境学習</li><li>・ ボランティア活動の推進</li><li>・ 行政の課題</li><li>・ その他</li></ul>	体制整備

## 2. アンケート調査

市民等、小中学生、事業者、ボランティア団体の調査結果を、次のとおり同じ質問ごとに比較した。

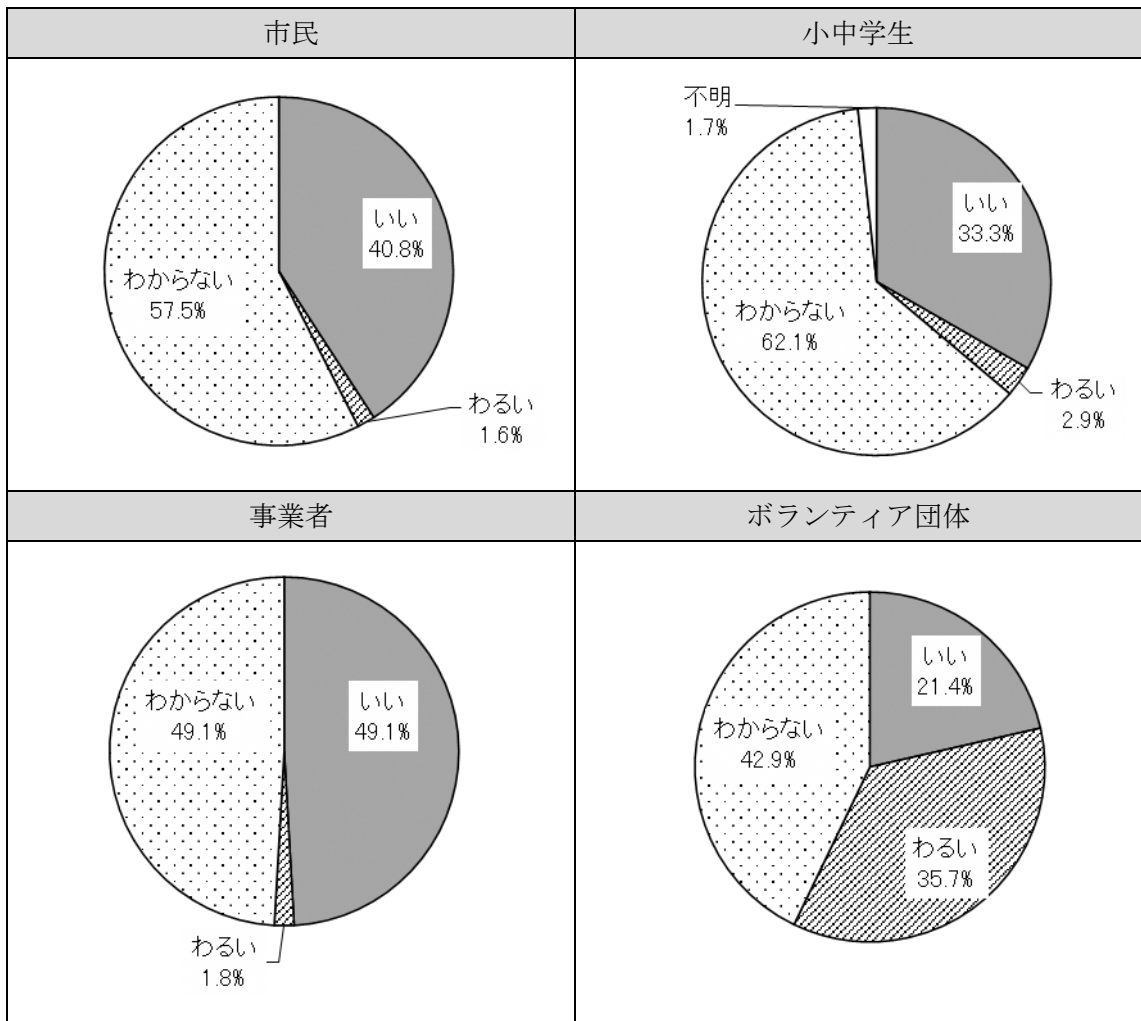
### Q1. 市内の水環境について、どう思いますか。

- ・市民等、小中学生、事業者は、「いい」の回答が「わるい」より多くなっているが、ボランティア団体は「わるい」が最も多くなっている。
- 「わるい」の回答としては、「川や海などが汚い」や「特定外来生物の増加」などが挙げられていた。
- ・市民等、小中学生、事業者は4割以上が「わからない」と回答している。



**Q2. 市内の水循環について、どう思いますか。**

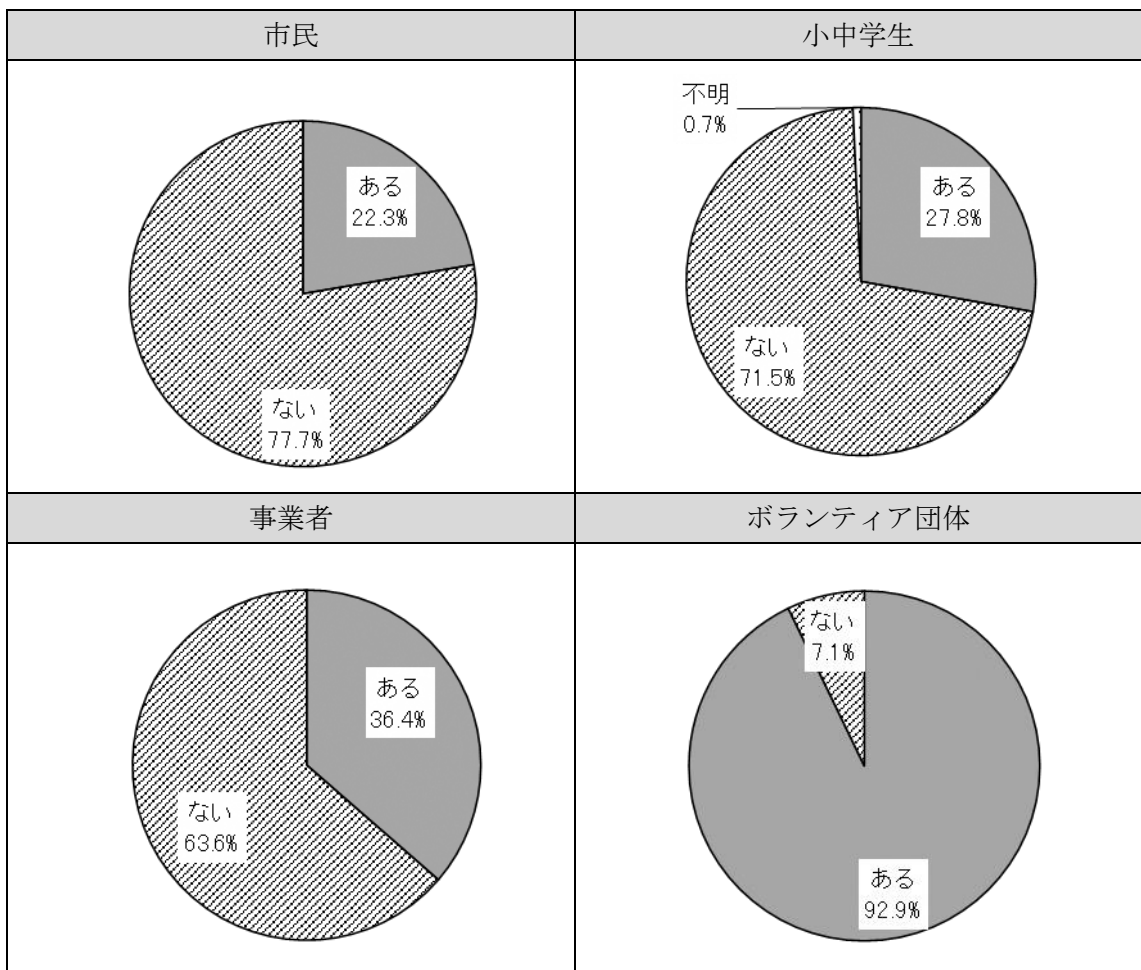
- ・市民等、小中学生、事業者は「わるい」が3%以下でしたが、ボランティア団体は約35%が「水循環」の状況は「わるい」と感じている。
- 「わるい」の回答としては、「湧水の場所と水量が減少している」、「豪雨が増えてきているため、洪水対策が必要」などの意見があった。
- ・各主体において「わからない」の割合が多く、特に小中学生は6割を超えている。



**Q3. 市内の水環境や水循環に関係している場所で大切にしたい場所はありますか。**

・市民、小中学生、事業者は、「ある」が2～3割程度、ボランティア団体は9割以上が「ある」と回答している。

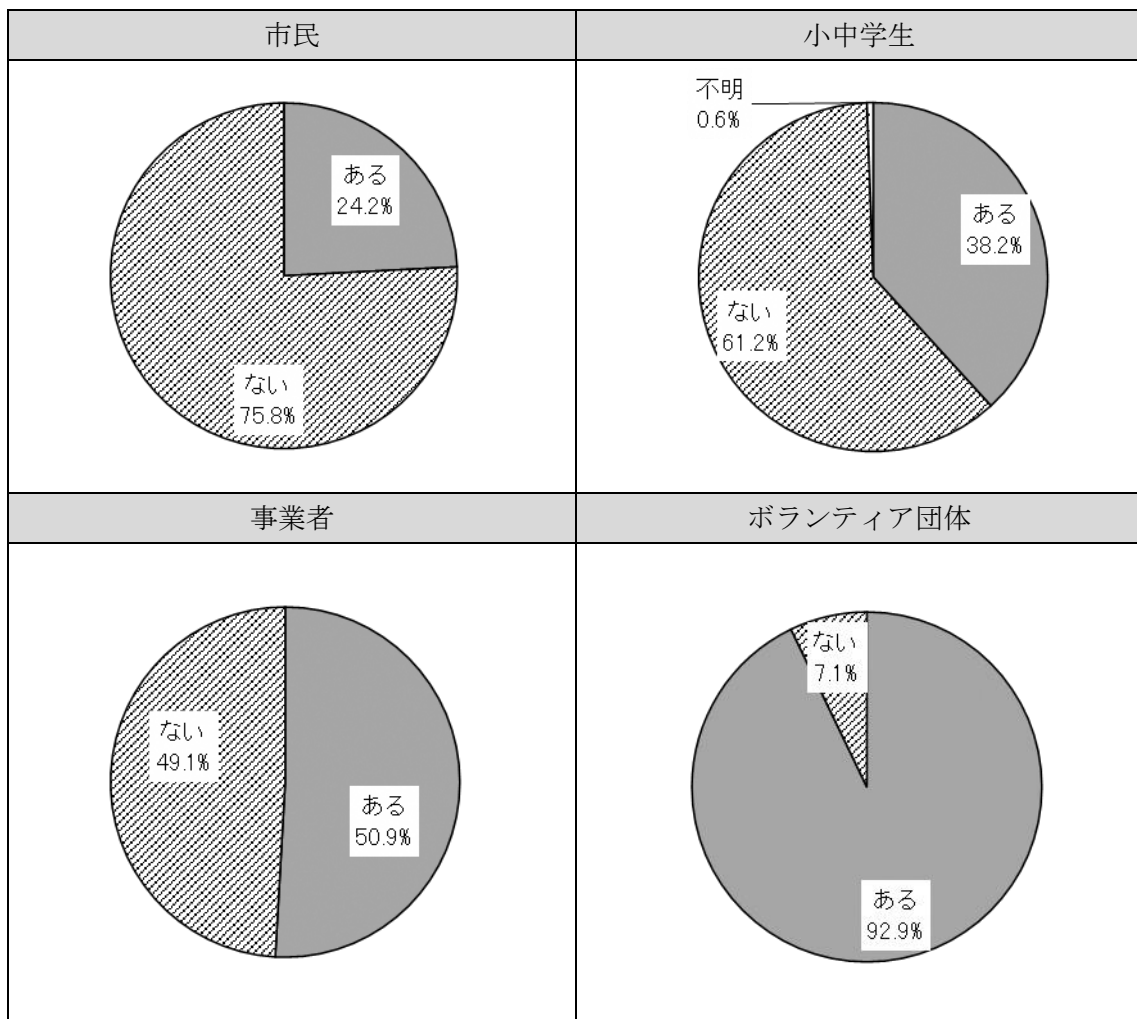
「ある」の回答としては、「海」や「川」が多く、次いで「公園」が多かった。



**Q4. 水環境や水循環をよくするために、気をつけたり、取り組んだりしていることはありますか。**

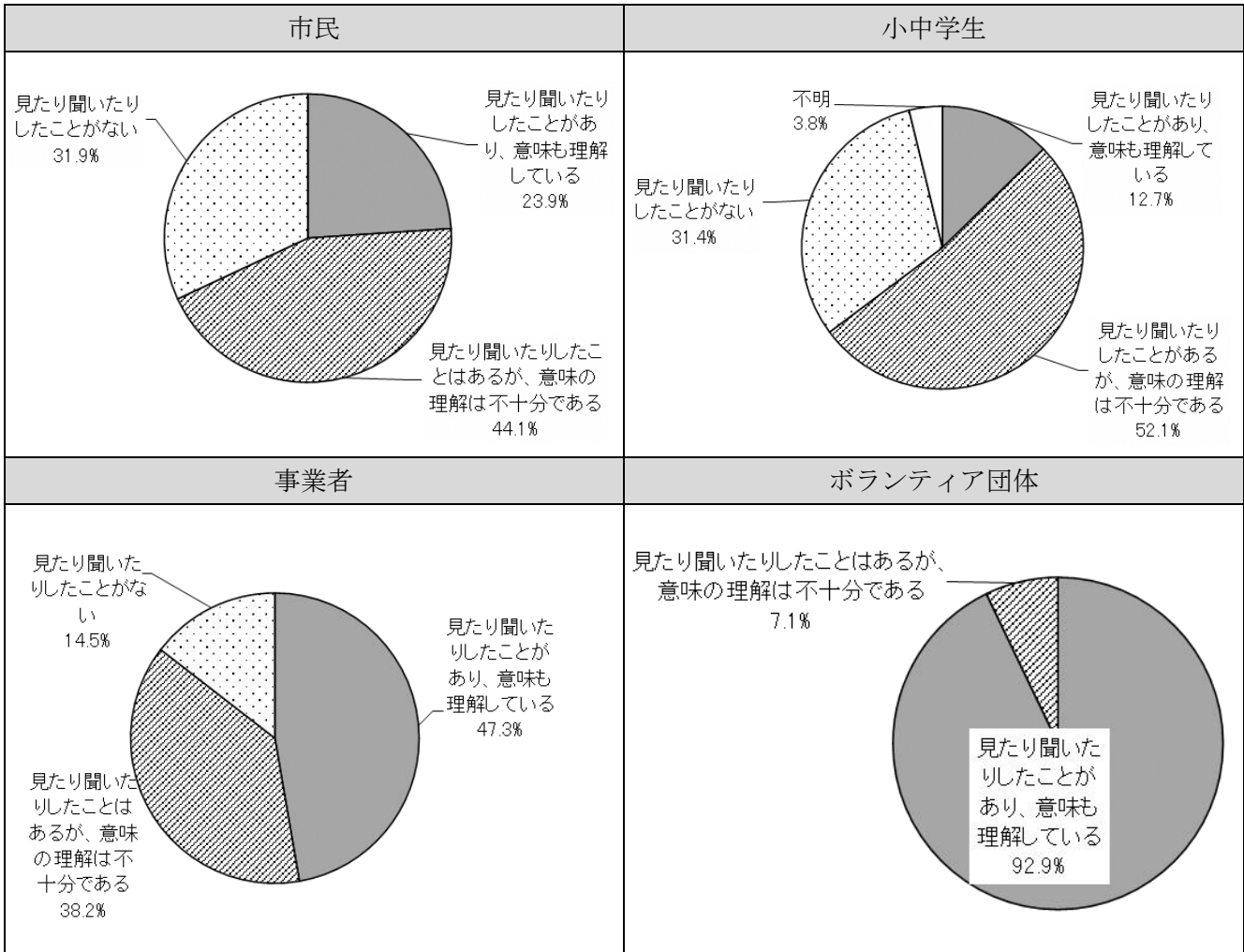
・市民、小中学生は、「ない」が6割を超えているが、事業者とボランティア団体は「ある」が半数を超えている。特にボランティア団体は9割以上と突出して多くなっている。

「ある」の回答としては、「油汚れはふき取る」、「節水」や「ポイ捨てしない」など家庭でできる取組みから、「水循環などに関する講座の開催」、「ホテルの生息地保護」や「工場からの排水基準の順守」などの意見もみられた。



**Q5. 「生物多様性」という言葉を見たり、聞いたりしたことがありますか。**

- ・活動団体のみが半数以上「生物多様性」を理解している。
- ・市民や小中学生の約3割は、「生物多様性」という言葉を見たり聞いたりしたことがないと回答している。事業者やボランティア団体は8割以上が「生物多様性」を見たり聞いたりしたことがあり、特にボランティア団体は9割以上が「意味も理解している」との回答だった。

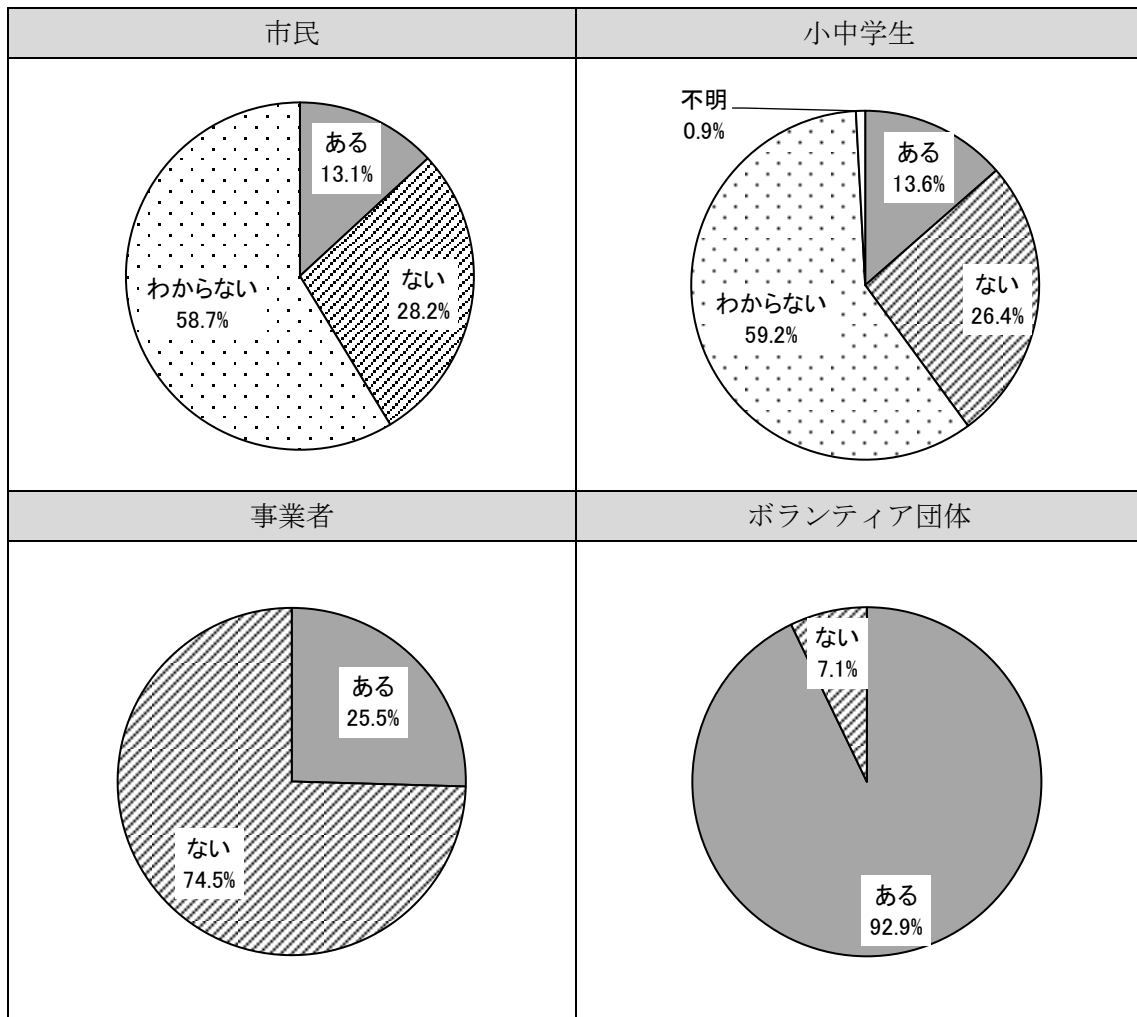


**Q6. 千葉市の生物多様性について、課題と知っていることはありますか。**

・市民や小中学生は「ある」が1割程度と少なく、事業者は2割程度、ボランティア団体は9割以上と大きな差が見られた。

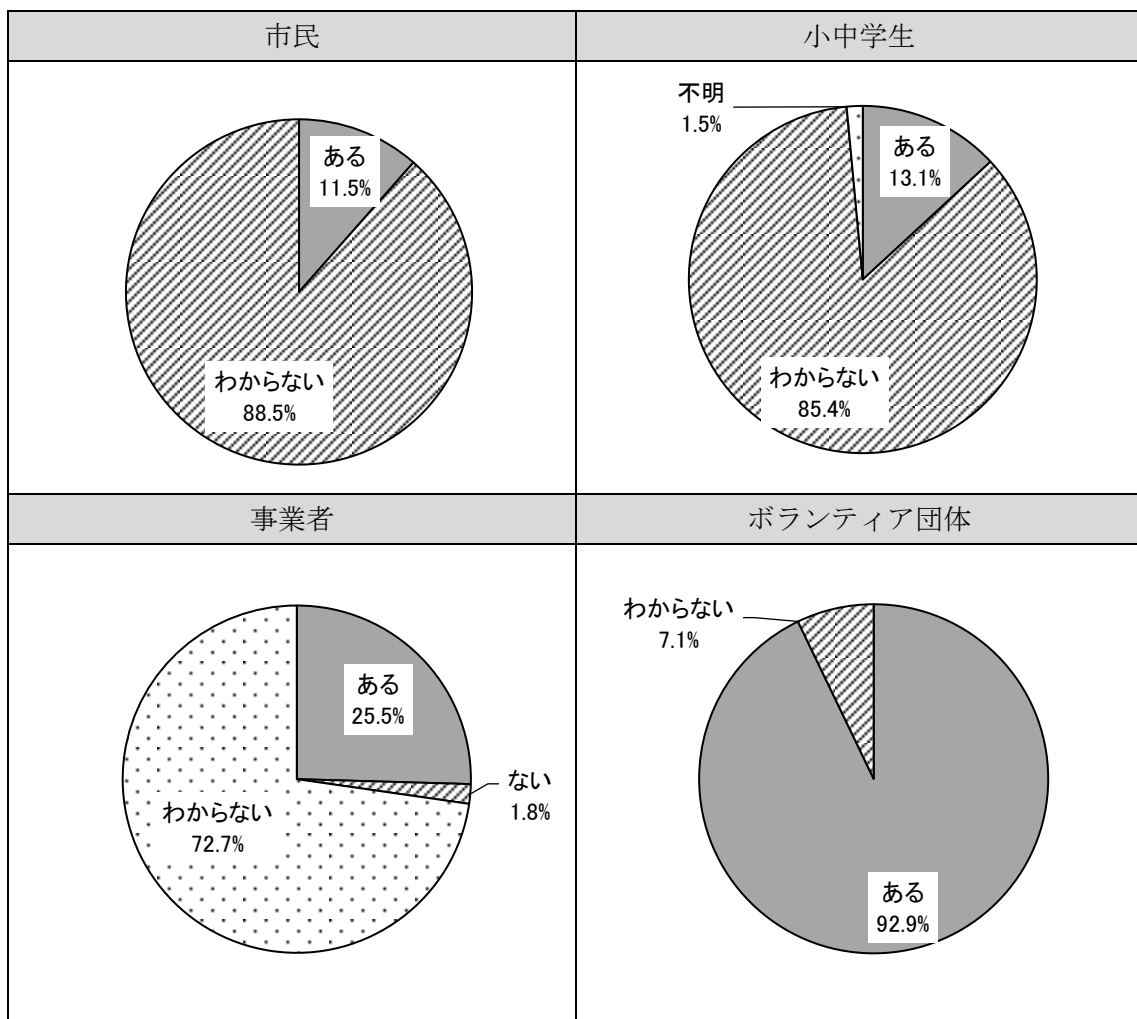
「ある」の回答としては、「生物多様性の理解が不十分」、「プラスチックゴミの問題」、「外来生物による希少種の減少」や「地球温暖化による影響」などの意見がみられた。

・市民、小中学生は「わからない」が半数以上を占めていた。



**Q7. あなたにとって最もかわりのある「生物多様性」はありますか。**

- ・市民、小中学生は「ある」が1割程度と少なく、事業者は2割程度、ボランティア団体は9割以上と大きな差が見られた。
- 「ある」の回答としては、「水環境」、「食料」、「家庭菜園」、「谷津田」、「ビオトープ」、「湧き水」、「里山」、「公園」、「農業」などの単語や「米作り」、「ホテルがいること」、「自然観察会の参加」なども見られた。
- ・市民や小中学生は「わからない」が8割以上、事業者は7割以上を占めていた。



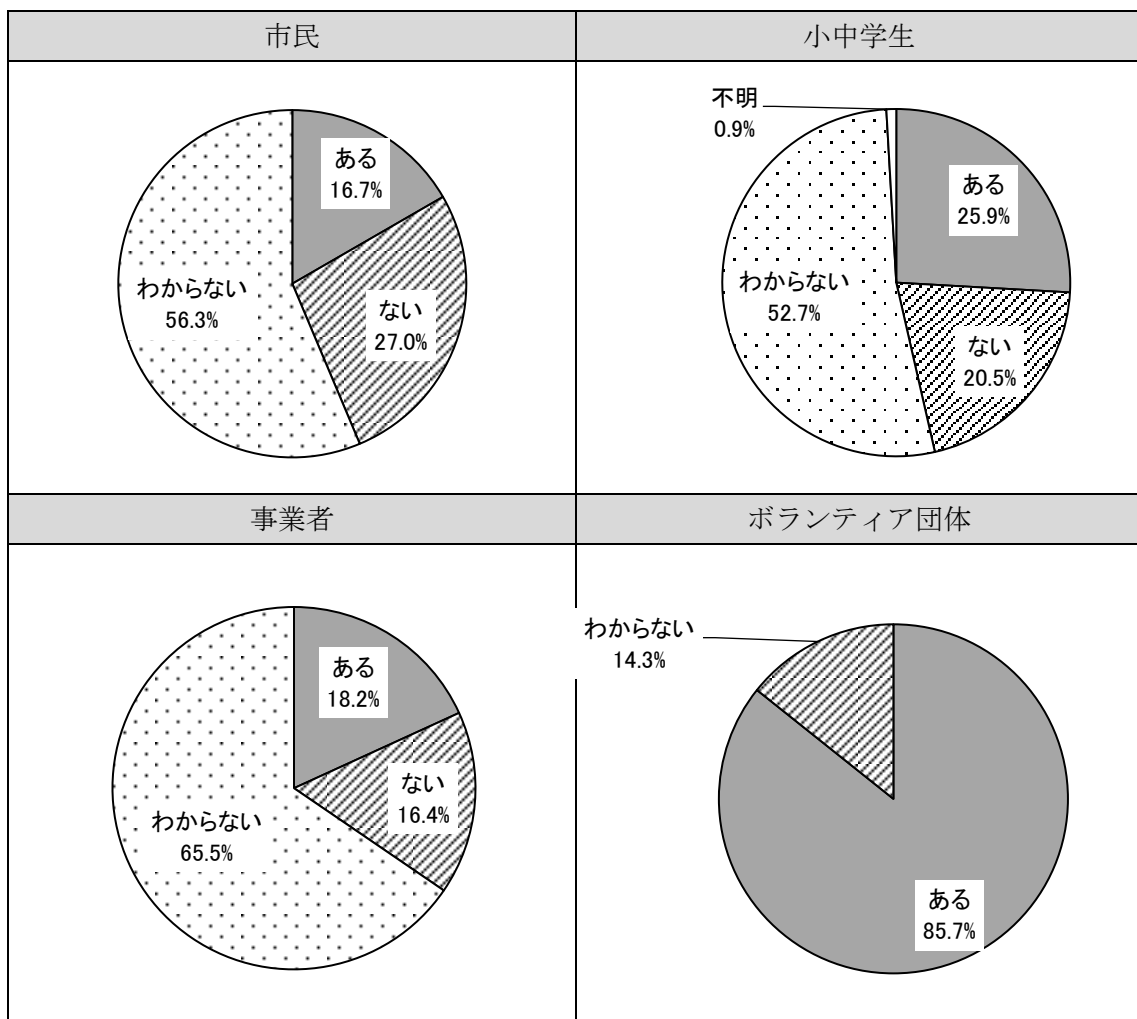


**Q8. 生物多様性について、あなたが思い描く未来への夢はありますか。**

・市民、小中学生、事業者は2割程度、ボランティア団体は8割以上が「ある」と回答した。

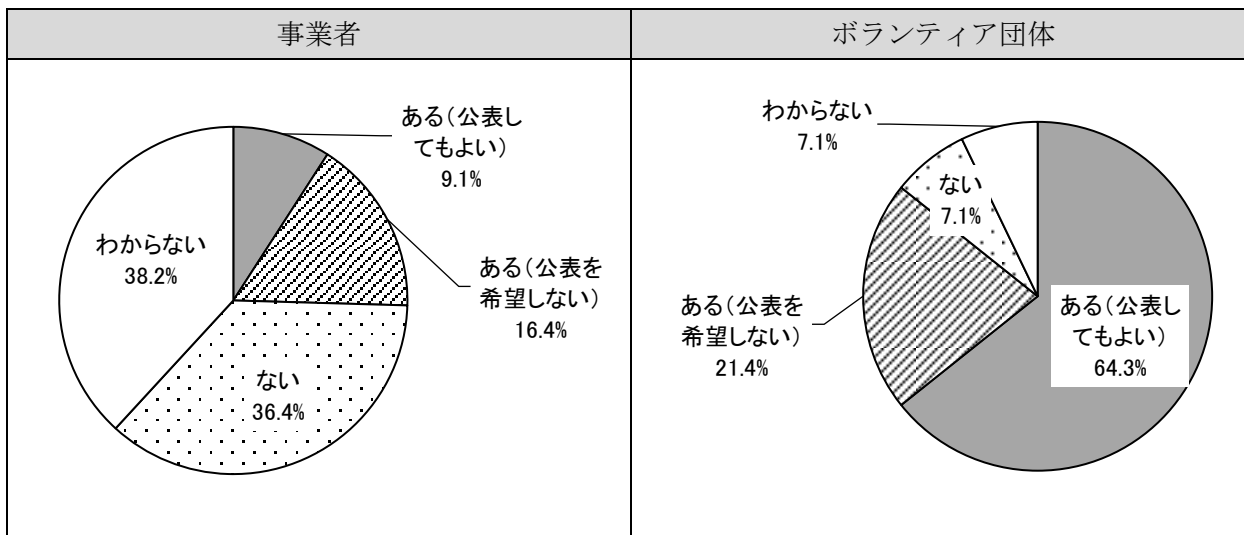
「ある」の回答としては、「魚がすむきれいな川」、「里地里山の生物のにぎやかさの復活」、「人も生物の一部であるため、多様な生物がバランスを取りながら暮らす社会」、「多様な環境、空間を緑の散策路等でネットワークする」や「未来の市民が誇れるような風景を残すことができれば、生物多様性も維持されて素晴らしい街になると思うし、子どもたちに残していきたい」などの意見がみられた。

・市民、小中学生、事業者は「わからない」が半数以上を占めていた。



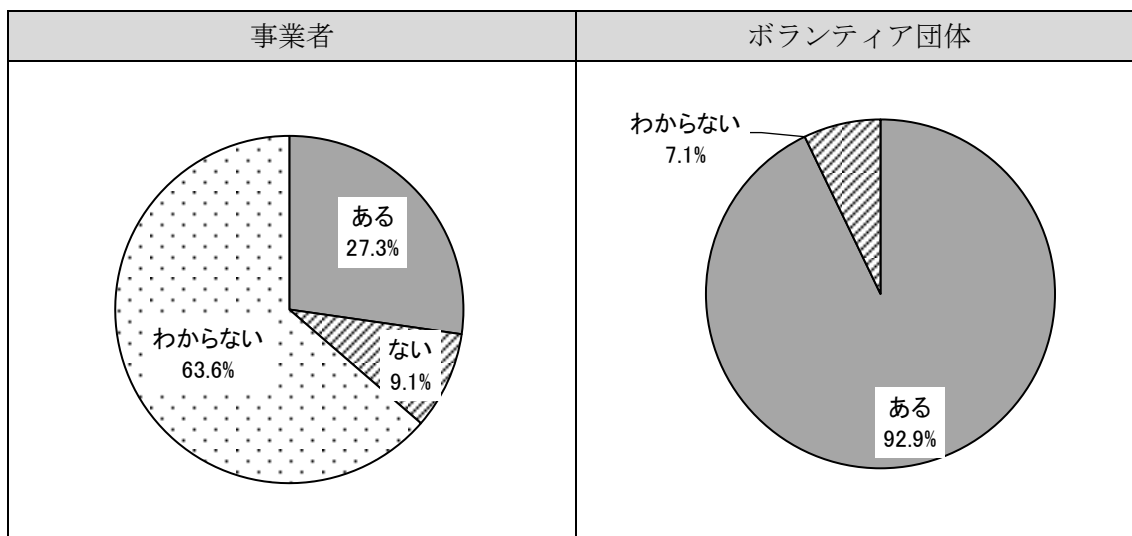
**Q9. 生物多様性を守っていくために、何か取り組んでいることはありますか。**

- ・事業者は2割程度、ボランティア団体は8割以上が取り組んでいると回答した。
- 「ある」の回答としては、「地球温暖化防止対策」、「環境経営システムの取得」、「緑地保全活動」、「希少種の保護や外来種の駆除」、「観察会や広報紙等による普及啓発」や「生き物調査の実施」などの意見がみられた。



**Q10. 生物多様性を守っていく取組みを進める上で課題だと感じることはありますか。**

- ・事業者は2割以上、ボランティア団体は9割以上が「ある」と回答した。
- 「ある」の回答としては、「活動者の高齢化」、「環境教育の場の拡充」、「生物多様性の認知度の低さ」、「環境を守るための付加価値の創出」などの意見がみられた。
- ・事業者は「わからない」という意見が6割以上を占めていた。

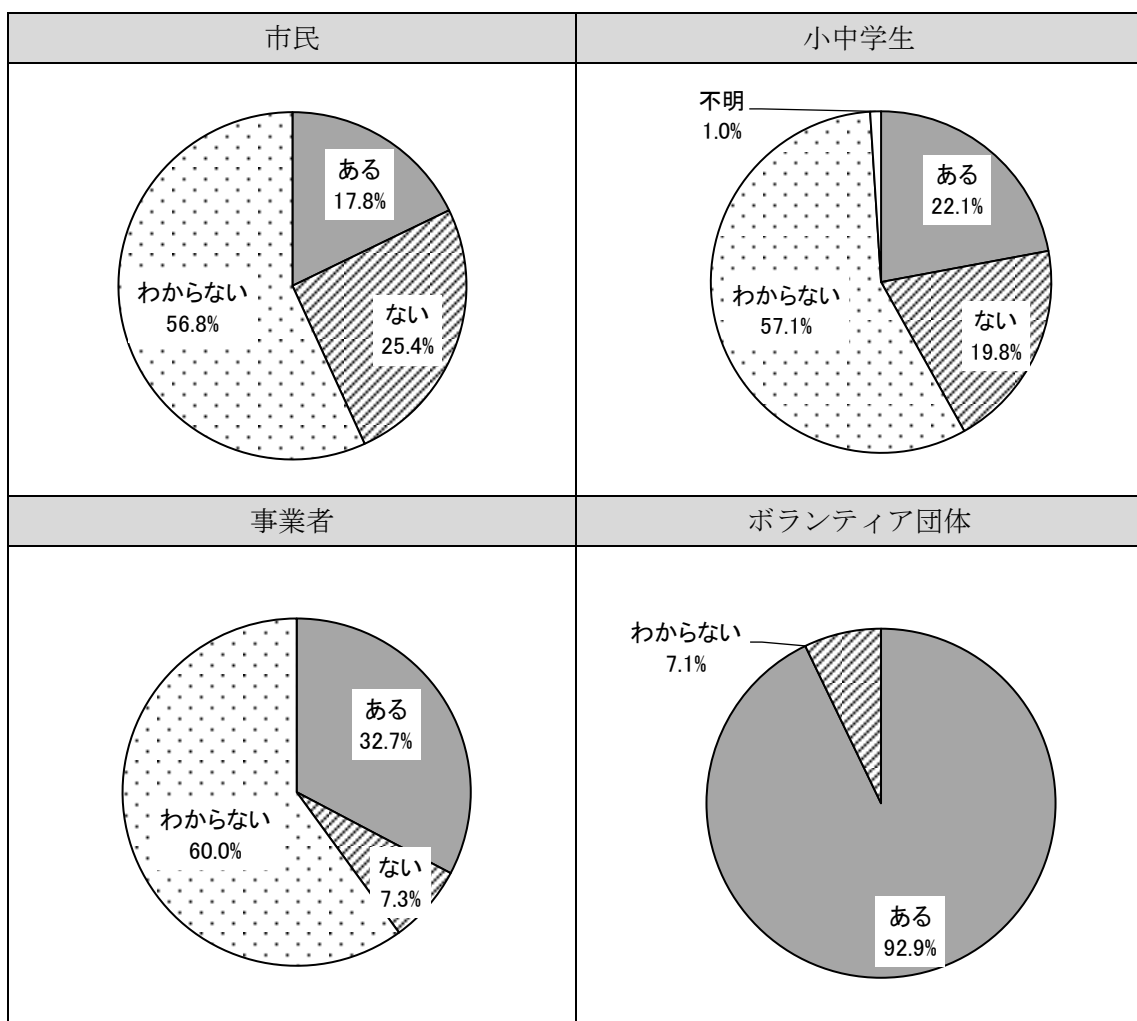


Q11. 生物多様性が豊かな未来にするために、どのような取組みが必要だと思いますか。  
 <市にしてほしいこと>

・市民、小中学生は「ある」が2割程度、事業者は3割程度、ボランティア団体は9割以上と大きな差が見られた。

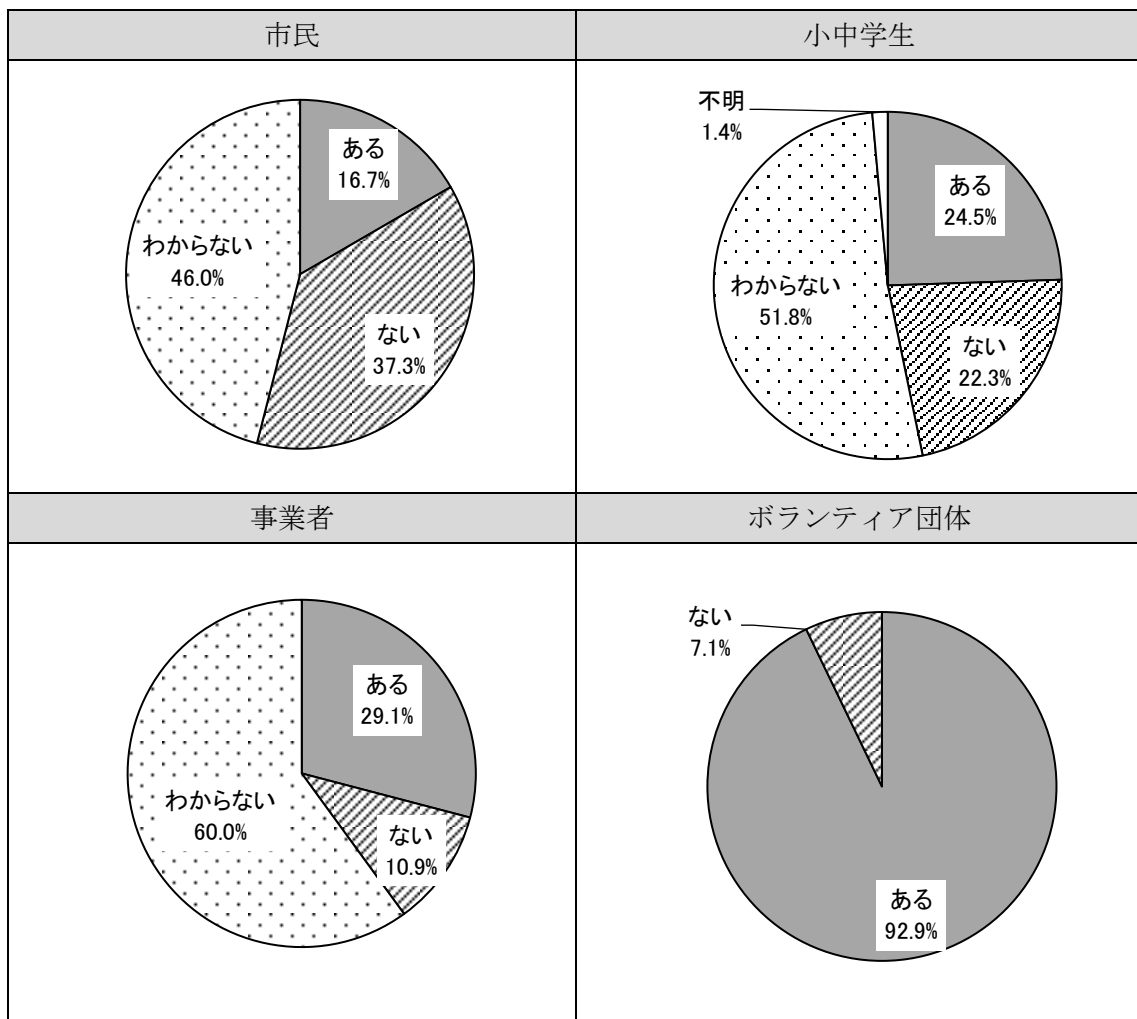
「ある」の回答としては、「住民がふれあえる水辺環境の維持・拡大、源流域の保全、河口域の自然再生」、「助成金制度の充実」、「活動者の支援」、「環境教育の普及」、「職員の理解度向上」、「外来種対策」、「川や海などの水環境の保全」、「プラごみの減量」、「耕作放棄地対策」などの意見がみられた。

・市民、小中学生、事業者は「わからない」が半数以上を占めていた。



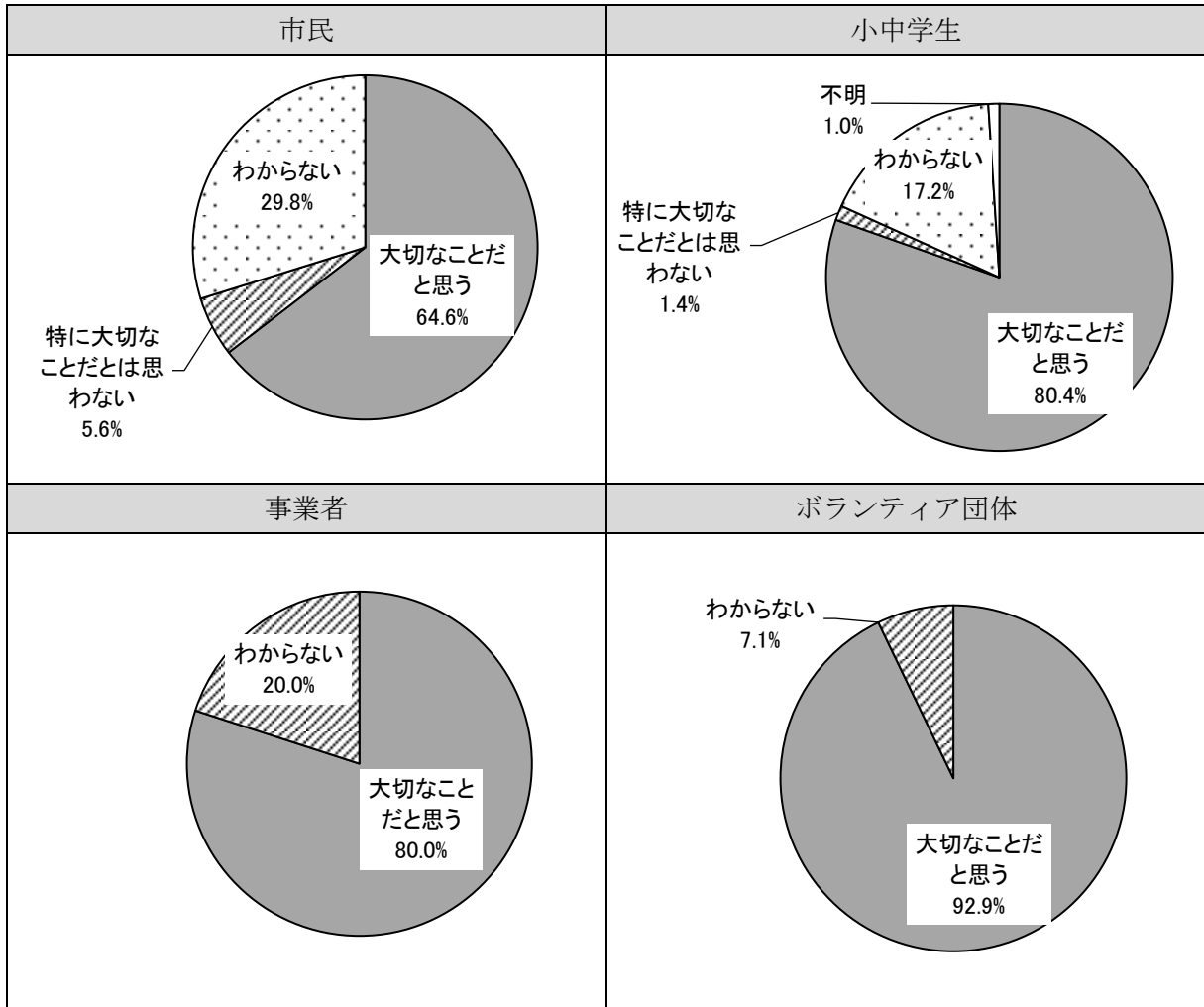
Q11. 生物多様性が豊かな未来にするために、どのような取組みが必要だと思いますか。  
 <あなた自身が行ってみたいこと>

- ・市民、小中学生、事業者は「ある」が1～3割程度、ボランティア団体は9割以上と大きな差が見られた。  
 「ある」の回答としては、「森林や水環境の保全」、「プラスチックごみの削減、ポイ捨てしない」、「自然保護活動」、「生物調査や観察会などの実施」、「外来種の駆除」や「地球温暖化対策」などの意見がみられた。
- ・市民、小中学生、事業者は「わからない」が4～6割を占めていた。



**Q12. みんなで「生物多様性」を守っていくことについてどう思いますか。**

・市民は6割以上、小中学生、事業者は8割以上、ボランティア団体は9割以上が「大切なことだと思う」と回答した。



Q13. SDGs の 17 の目標のうち、取り組んでいる、または取り組む予定の目標はありますか。

・事業者は「エネルギー」、「保健福祉」、「経済成長と雇用」への取り組みが多い結果となった。また、ボランティア団体は「持続可能な都市」、「海洋資源」、「陸上資源」への取り組みが多い結果となった。

